

開発と権利のための 行動センター

Centro de Acción para el Desarrollo y el Derecho -CADE-

できることはきっとたくさんある

&

水と大地のネットワーク

Agua y Tierra

水と大地のように私たちもつながっている



行動センターは次の方針で現地支援や情報収集・分析・発信を行っています。

「人々の権利の尊重」

「公正かつ多様性を尊重した開発の実現」

「環境保全」

2009 年からは、

地球上の様々な地に住む人々の、

それぞれの地域からの取り組みを伝え、

つながっていくために

「水と大地のネットワーク」

という取り組みを進めていくこととしました。

活動実施のためのご支援をお願いします。

＜グアテマラの先住民族の人たちとのつながり＞

＜森の守り人＞アソシエーションとのつながり

アソシアシオン・イロル・キチェ (Asociacion Iloil K'iche':AIK <森の守り人>の意)はイサバル県のリビングストンのシエラ・デ・サンタ・クルス地域で活動する地域の住民組織です。私たちはこの地域で (RECOM によるプロジェクト実施への協力を含めると) 2000 年から活動を続けています。



当初この地域は環境 NGO との土地紛争を抱えていました。自然保護区を設置するという名目で、25000 ヘクタールもの土地の所有権を政府から無償で得た環境 NGO と、それ以前から土地登記の手続きを進めていた先住民族コミュニティが対立していたのです。私たちは土地問題解決のために活動していた先住民族組織を通じて、コミュニティの強化や持続的な農村開発のための支援を続けてきました。

こうした中で、2004 年にサンタ・クルス地域のコミュニティが参加して、「コミュニティ間調整会議」が設置されました。この調整会議は、サンタ・クルス地域における自然保護区制定を進めたい環境団体の意向を強く受けて設置されたものでした。しかし私たちは地域住民の主体的な参加と決定に基づく、本当にコミュニティによる組織となっていくことを願いつつ、この会議に対し、組織強化のための活動などを実施しました。

この調整会議を母体として、2007 年に20コミュニティが参加して AIK が結成されました。AIK は自然保護区の管理だけではなく、先住民族のアイデンティティーに基づく、持続的な開発を目指しています。

AIK は先に挙げた環境 NGO とも活動を続けていますが、プロジェクトを実施することばかり関心がある NGO は組織強化に目を向けることがなく、結果的に地域住民は何かどう動いているのかよくわからないままにプロジェクトを受け入れるばかりとなっています。

私たちではこうした状況に対して、地域のコミュニティや住民組織がその組織を強化し、主体的に自分たちの自然資源を管理し、利用していく力を持つこと、そして外部の NGO などと対等に交渉していく能力を高めることが重要だと考えて活動を行ってきました。

AIK のメンバーに対して、隣のペテン県で持続的な森林資源利用に取り組む住民組織や自然保護区の管理に取り組む住民組織を訪問してその経験を学ぶ機会を提供し、またケクチ語を話せる専門家を頼んでリーダー研修なども行ってきました。

2009 年から 2009 年にかけてはいくつかの経験交流を行いました。身近な組織との経験交流は自分たちの可能性に気づくいい機会となります。昨年 2 月にはペテン県の ACOFOP < ACOFOP はコミュニティで森林利用権を受けて持続的な森林利用に取り組んでいる住民組織です>、12 月には同じくペテン県のビオ・イツァ・アソシエーション<ここは住民組織によって保護区の設置や環境教育、エコツアーなどに取り組んでいます>、また今年 2 月にはイサバル県のアク・テナミット<ここは教育やエコツアーなどに取り組んでいます>との経験交流を行いました。



研修は現地の専門家に依頼してケクチ語で行い、問題分析や活動計画の策定の仕方など組織運営について行ってきました。(これらの活動は「かながわ民際協力基金」の半額助成を受けて実施しました)

こうした活動を通じて、AIK の運営委員が組織運営について積極的に学び、議論する場を作れたことは非常に重要な成果でした。人任せの組織ではなく、自分たちで組織を運営していくことの重要性、そのために学ぶべきことについて気づき、今後より積極的に活動していく意欲を示しています。

今後はこれまでの活動の成果を実際に利用していく中で、組織を強化していくことを目指しています。

一つには運営委員の計画立案とモニタリングの力を強化していく活動です。これは AIK の運営委員の定期会議の際に、計画をたて、それがどう動いたかを把握し、また問題があればその問題を解決していこうというものです。

もう一つは運営委員だけではなく、コミュニティの参加を促すために、定期的に運営委員がコミュニティを訪問して意見交換を行う機会を設定していきます。

活動支援へのご協力をお願いします。

支援金は研修／会議／経験交流などの諸経費(交通費、宿泊費、研修講師料など)に使わせて頂きます。

まず、人と組織を育てることが大切です

<コツツアルのイシル民族の若者たちとのつながり>

キチェ県コツツアルの若者グループとの出会いは昨年5月のことでした。別のプロジェクトで訪問していたネバでコツツアルの若者たちの状況を知り、生まれたばかりの地域の若者組織 CONJUPAZ (Coordinadora Integral de la Juventud Maya Cotzalense por la Paz :マヤ・コツツアルの若者たちの平和のためのコーディネーター) の活動を支援していくこととしました。



グアテマラのキチェ県北部のイシル地域にあるサン・ファン・コツツアルは、36 年間にわたる内戦の被害がもっとも大きかった地域の一つです。地域社会は分断され、政府軍による弾圧が繰り返されました。内戦終結から 10 年以上経ちますが、暴力によって支配された時代の傷口はいまだ癒されてはいません。更に数年前から”マラス”と呼ばれる若者グループによる暴力が大きな問題となっています。若者たちが行き場がなく、暴力に走る背景には教育や就職の機会が限られていることなど、グアテマラ社会の先住民族に対する差別の問題とも深く結びついています。

こうした中で、コナビグア(連れあいを奪われた女性たちの会)による、青少年への人権教育やエンパワメントのための研修に参加した若者たちが集まり、自分たちの地域社会の問題解決に貢献し、また地域社会の中での参加のスペースを広げていくために、地域の若者たちによる組織を結成しました。こうして生まれたのが CONJUPAZ です。

CONJUPAZ は、内戦孤児の子どもなど経済的にも厳しい若者(男女)とともに、平和の文化のもとでの共存を目指して、人権教育、子どもの親たちへの人権問題への触発、政治参加の促進のための研修活動などを進めています。私たちは初年度は CONJUPAZ の活動支援として活動用の PC 購入を行いました。(寄付金総額 1065 ドル)

この先、若者グループによるパソコン教室などのアイディアもあり、詳細を詰めるとともに資金確保をしていきたいと考えています。(現時点では詳細は定まっておりませんが、CONJUPAZ として頂ければ、そのために利用します)

イシル民族の未来、地域のコミュニティの未来は、若者たちの肩に掛かっています



＜イシル民族の人たちとのつながり＞

「グアテマラにおける『先住民族の自然資源への権利』に関わる住民組織強化およびネットワーク強化支援」のプロジェクトの一環として、キチェ県のイシル地域で活動を展開しています。キチェ県北部のイシル地区は内戦時の弾圧が最もひどかった地域の一つでもあり、また遠隔な山間地であり開発からも取り残されています。一方、地域の先住民族にはほとんど情報が届けられることもないままに、水力発電ダムの建設計画など、住民無視の巨大プロジェクトがあちこちで持ち上がり、強引に進められています。

こうした中で私たちはネバ・チャフル・コツツアルの三つの自治体を含むイシル民族のテリトリーにおける様々な組織間の連携を強化することが重要だと考え、組織間での情報共有やワークショップなどの開催を支援し、地域の様々な組織が協力して問題に対処していくための活動を支援しています。

（この活動はアーユス仏教国際協力ネットワークの「パートナーシップ支援事業」の助成金を受けて実施しています）

＜水法廷を通じたつながりの支援＞

2008年9月8日～12日にかけてグアテマラで「ラテンアメリカ水法廷」が開催されました。市民社会のイニシアティブによる民衆法廷である「ラテンアメリカ水法廷」では、ラテンアメリカ各地でダム開発や水質汚染の問題を抱える人々が参加し、その状況を訴えるとともに、権利の尊重を訴えました。

私たちは、ダム開発問題を抱えるキチェ県のイシル地域やイシュカンの地域リーダーの参加経費を支援するとともに、パナマの先住民族、ナソ民族の代表の参加経費を支援しました。

知り合い、問題を共有し、ともに解決のために取り組んでいくことが大切です。



＜パナマのナソ民族とのつながり＞

2008年5月、ボンジック川支流に計画されているダム建設計画の見直しを求めるナソ民族のコミュニティを訪問しました。それ以来、テリトリーへの権利を求め、自分たちの未来を自分たちで決めていくために闘っているパナマのナソ民族の人たちからの情報を受け取り、また日本語での発信作業も続けています。

なかなか具体的なアクションが取れずにいますが、ブログなどの情報に目を通してください。

パナマ：ナソ民族の権利の尊重を求めるインターネット署名

パナマ：ナソ民族が土地から排除される

パナマ：先住民族の集団的土地所有をめぐる

などなど掲載しております。

＜コロンビアの人々とのつながり＞

2008年10月12日以来、コロンビア各地で先住民族組織によって先住民族の権利の確立を求める運動が展開されました。先住民族組織は、この運動で、政府側に対して、これまで結んできた合意事項の履行、先住民族に対する暗殺事件や、土地問題の解決などを訴えていました。しかしカウカ地方でパン・アメリカン・ハイウェイを封鎖していた多数の先住民族に対して、政府の治安部隊が、銃撃等を含む弾圧を行ったことから、1名の死者と90人近くの負傷者ができる事件が発生しました。

私たちは、この事件に対して、暴力的な抑圧の停止、基本的人権の擁護、先住民族の権利の尊重を求める声明を発表しました。

またコロンビアの CENSAT-Agua Viva という環境 NGO に所属し、FoE Japan の招きで「途上国における温暖化対策～責任ある支援とは？」というテーマのシンポジウムに参加するために来日したイレーネ・ベレスさんからコロンビアの状況について話を聞きました。

この他にも南米勉強会や講演会の開催などを通じて、コロンビアの状況について学ぶとともに、日本国内向けに情報発信を進めています。

つながっているんだから、

つながっていかなくちゃ

＜中南米や世界の人たちとつながっていくために＞

国内で次のような活動を行いました。

- ・ 2008 年9月 :「グアテマラの環境活動家ユリ・メリニ氏暗殺未遂事件に対して、連帯声明」
- ・ 2008 年7月7日 :「ラテンアメリカ先住民族女性の状況－「先住民族サミット」
アイヌモシリ 2008 報告会後援」
- ・ 2008 年9月14日 :金沢文庫芸術祭にて出店
- ・ 2008 年10月 :「勇気を受け継ぐ II ロサ・ベレス＝トフスピーキング・ツアー」賛同
- ・ 2008 年12月2日 :「ラテンアメリカの先住民族運動と環境・開発」行動センター報告会開催
- ・ 2009 年2月～6月:南米連続勉強会
エクアドル／ボリビア／コロンビア／コロンビア／ペルー／社会運動
- ・ 2009 年6月7日 :柴田大輔氏(写真家)によるコロンビア報告会

「見えてこない結び目をあらためてつなぎ直し、「思い」をつなげることを通じて、新しい世界を生み出していくために」

行動センターではブログや HP を通じて中南米の先住民族運動や環境運動に関する情報発信を進めています。 <http://cade.cocolog-nifty.com/ao/>

毎日新聞「ひと」欄にも掲載して頂きました。掲載 (2008/12/28)

＜日本国内でのつながり、会員とのつながり＞

行動センターの会員でもあり、環境ジャーナリストでもある古谷桂信さんを通じて、国内の動きと少しずつつながりを作りつつあります。

2008 年から 2009 年 5 月にかけて次のような活動を行ってきました。

- 2008 年7月6日:「琵琶湖とグアテマラをつなぐー地域の視点から環境を考える」
古谷さんの『生活環境主義でいこう！ 琵琶湖に恋した知事』の出版を記念して対談会を開催
- 2008 年11月2, 3日:「川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー」ポスターセッション参加
- 2009 年2月28日:「地域の元気で温暖化を防ごう！高知県梼原町にて小水力に関するセミナー開催(水と大地のネットワークとして主催)」
- 2009 年5月30日:「小水力の魅力と高知県の可能性ー梼原町の経験からー」(水と大地のネットワークとして共催)

＜水を通じたつながり:高知県梼原町でのセミナーの報告＞

「地域の元気で温暖化を防ごう！」と題したセミナーを2月28日に開催しました。

高知市内から車で2時間近くかかる場所での開催となりましたが、環境政策で先端を走る梼原町の取り組みを学ぶこともできる非常に有意義なセミナーとなりました。セミナーには高知県内各地から、また徳島県や関西からの参加者も迎えることができました。

講師の小林久、茨城大学教授は小水力発電の可能性について、日本やドイツの事例も交えて報告してくれました。まず、「日本の国土に張り巡らされるようにあった」、「水というのはすぐ脇にある資源なのだ」という視点が提起されました。「日本は雨も多く、世界の中でも水が非常に身近にある国である」、「水は、雨から山の小さな流れになり、それがまた流れを集めて川ができてくる、自然の中で、水という資源は集まってくる」、「用水路などによって利用されてきた歴史」。こうした点から、「水は社会の中に溶け込みやすい資源なのだ」というのは重要な指摘でした。さらに水は身近にある上に、風力と較べてもエネルギー量が大きいというのが小水力の可能性を示しています。

更に興味深い話は、もともと地域の村々から、「地域から」、発電事業が行われてきたという歴史でした。明治の終わりや大正のはじめに、地域の中から村に電気をつけるための取り組みが日本の各地で進められてきたということです。もともと水、そして電気は「地元の資源」だったのです。

また石油を買って車を動かし、電気を起こしているのでは、お金が外に、産油国に流れていってしまう。地域の中でお金が循環していく流れを築くことが重要。また電気は動力源として使うことでエネルギー効率も高く、重要であろうとのこと。また高価なバッテリーではなく鉛バッテリーを充電しての利用でもいいのではないか、ということでした。

最近視察に行かれたドイツの事例も報告されました。ドイツでは1000キロワット以下の発電所が90%以上である一方で、日本では25%に過ぎないとのことでした。さらにドイツでは1年間に300カ所づつ小水力発電所が建設されたといいます。発電規模は平均で 167Kw とのことでした。

小林先生は日本でもまだまだ小さい水利用が可能だろう、より小さい規模の水力発電が可能だろうという方向性を示してくれました。10 キロワット、数キロワットの小水力というものも現実的かもしれないとのことでした。また金額的には 1 キロワットの設備が 100 万円、補助金を想定しても 200 万円でするようにならなければならないと考えているとのことでした。

梶原町の施策については、環境推進課の岩本直也課長に報告して頂きました。報告では「循環と共生のまちづくり」を目指している梶原町の様々な取り組みについて説明を受けました。梶原町では新エネルギービジョンに基づいて、風力発電に始まり、地域の森林資源を利用した木質ペレットの利用、個人住宅向けの太陽光発電助成、地熱利用のヒートポンプまで様々な取り組みを行っています。そうした取り組みの一環としてまもなく竣工予定の小水力発電事業も進められています。また風力発電の売電によって「環境基金」を設置し、間伐補助金や太陽光発電の個人設置への補助金などに利用しているとのことでした。小水力発電の電気は、街路灯、トンネル照明に利用するとともに、四国電力に売電する予定とのことでした。

セミナーのあとの懇談会の中では、梶原町の革新的な政策の実現を可能としている行政と住民との関係、地域の子どもたちと川とのつながりを取り戻すために、プールを壊して川で小学生たちが泳いでいる話なども出てきて、今回のセミナーのテーマ以上に学ぶことの多い梶原町訪問となりました。



2日目の3月1日は、参加者の希望を受けて、越知町の横畠集落の小水力発電建設計画現場を視察しました。ここでは先人が作った用水の水を利用しての小水力発電が計画されています。村の中で利用されてきた村の中の水を利用して、村おこしのために発電しようという取り組みが進められています。

小林先生は地域の人々とともに利用が検討されている農業用水を視察し、取水位置、利用可能な発電機の形状など様々なアドバイスをしてくださいました。その後は横畑でおいしい昼食をごちそうになりました。皆様どうもありがとうございました。

なお今回のセミナーは水と大地のネットワーク（開発と権利のための行動センター）の主催、梶原町、梶原町森林組合、によど雑木団の協力で開催することができました。皆様ご協力ありがとうございました。

またうれしいニュースとしては、小林先生の所属されている全国小水力推進協議会では、高知県を重点地域として積極的に取り組んでいくこととなったとのことでした。今年の5月に計画されている高知でのイベントには再び「水と大地のネットワーク」も協力する予定です。（2009.4.1）



<会員とのつながりー理事の栗田桂子さんから>

仁淀川町、という山里に住み始めて丸4年になります。

昨年からの世界的不況の波が押し寄せ、日本も大変なことになっていますが、こと高知に関しては、大手メーカーの工場も少なく、とりあえずの影響は最小限のようです。何よりも、その前の好景気の恩恵にまったく預かっていないので、「不景気不景気言うけど、今までと変わらん」といった



高知県のお茶畑

調子です。それでもこれからじわじわとその余波に飲み込まれていくのでしょうか…

むしろ景気対策で交付金が増額になり、公共事業は今年度より増加するため、田舎の土木業は不景気を歓迎しているぐらいです。農林漁業にも大勢の求職者が押しかけ、就職説明会は大盛況のようです。この状況を見る限り、地域格差というのは本当に大きいなぁと実感します。

好景気も不景気も影響が少ないということから見るように、高知県は一次産業に大きく依存する県です。荒波にもまれる太平洋に面した長い海岸線はどこまでいっても自然のままの海岸が続き、川は源流から河口まで清らかで美しく、視界を遮る高層ビルや煙を吐き出す長い煙突もない。天気の良い日は真っ青な空が広がり、夜には月の光がびっくりするほど明るいのです。

おかげで県民所得は沖縄県に次いで低く、下から全国2位。さらにひとつ上の鳥取県に大きく引き離されています。教育水準も低く、学力テストでもかなり下の方。共働きや離婚も多く、家庭での子育てに大きな問題も抱えています。こうした所得が低いゆえに引き起こされる様々な問題を全県レベルで抱える県でもあります。

私は都会から初めて高知に来たとき、いつかきっと高知は全国でもトップクラスの県になると確信しました。ここまで自然が残されている県はなかなか無いと思ったからです。県民がそのよさに気づき、幸せはお金ではかるものではない、教育はテストの点だけじゃない、ということに気がつけば、ものすごい能力を発揮するのではないかとと思っています。

中南米、特に南米では、左翼政権が次々と誕生し、世界の流れに変化をもたらしています。その動きを横目で見ながら、市場第一主義、欧米追随の呪縛から逃れる必要があるのは、私たち自身だろうと思う常日頃です。逃れたいけど、なかなか逃れられないその呪縛を解くために、私は海の向こうで真っ向勝負を挑む人たちを支援し続けているのかもしれない。（2009.2.19）

＜会員他の皆様へ、理事青西より＞

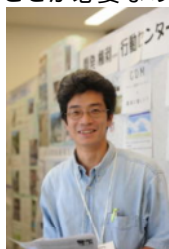
行動センターでは海外、特にグアテマラでの活動に加えて、ブログでの情報発信に積極的に取り組んできました。グアテマラやパナマだけではなく、ボリビア、エクアドル、コロンビア、ペルーなど様々な地域における先住民族の声や、バイオ燃料、ダム開発の問題などを伝えてきました。

グローバル化の中で、世界中を商品が動き、お金が駆け巡っています。日本の企業も、レアメタルを探し、排出権クレジットを探し、食糧を探し、農地を探し、投資先を探すために、世界中で情報を集め、また経済活動を行っています。このようにグローバルな市場を通じた取引関係が広がる一方で、私たちはそうした取引が本当に公正で正当なものなのか、十分に考えるだけの情報やつながりを有してはいません。企業がいくら「社会的責任」などと語っても、把握するすべもない状態です。世界中を商品が動き、お金が動くのと同様に、人々の声がより豊かに流通することが必要とされています。

実際には私たちが生きている社会の経済は、あまりに大きく、そしてスピードの速いものになりすぎてしまい、それに対抗して人々の声をつなげていくという作業は、とてつもない作業になってしまっています。これに対抗していくためには、市場経済自体を減速させて、みんながちゃんと考える事ができるゆとりを生み出していく必要もあります。

私は先住民族の人たちの声が持っている強さには、その土着性、共同性、そして長い時間での視点というものが根幹にあるように思います。嵐のように吹き抜けて利益を収奪していく現在のグローバルな市場経済の論理とは真っ向から対立するものであり、こうした視点こそが市場経済を再編していく鍵になるものだと考えています。

食糧価格高騰の問題やバイオ燃料生産の問題は、様々な形で世界がつながっていることをあらためて示してくれました。「同じような問題を抱えているんだ」、「実はもっとつながっているんだ」、そういう見えてこない結び目をあらためてつなぎ直していく作業が必要とされています。「思い」をつなげることを通じて、新しい世界を生み出していくことが必要なのだろうと考えています。



是非皆様と協力していければと考えておりますので、
よろしくお願いします。

行動センターは

地域のコミュニティや地域の組織が、

自分たちで解決の方向を探すためのプロセスを側面から支援していきます。

開発と権利のための行動センターの活動への協力を是非お願いします。海外の活動への寄付金は、全額現地での活動費に当てさせていただきます。

今年度はネットワーク強化・現地調査などの寄付金もお願いしています。

＜寄付金・会費の振込先＞

◆郵便振替口座:00230-5-131472 ◆口座名:開発と権利のための行動センター

◆ゆうちょ銀行 029店 預金種目 当座 口座番号 0131472

受取人:開発と権利のための行動センター (カイハツトケンリノタメノコウドウセンター)

(会費・寄付金等の使途を明記ください)

＜会員制度と会費のご案内＞

正会員 (会の理念、活動に賛同し、活動を担う会員) 年会費 3000 円

賛助会員 (会の理念、活動に賛同し、会の活動を賛助する会員) 年間一口 3000 円

メール会員 (この会の目的と活動に関心を有する個人) 年会費 任意

上記会員の方には年に 1 回から2回の活動報告等の送付を行います。会員向けの特典等は特にありません。

行動センターの活動を続け、広げていくためには、活動を担って頂ける会員の方、行動センターの活動に賛同して賛同費を出して頂ける方が不可欠です。

いずれの会員もメーリングリスト等に参加し、メールにての情報を受け取れます。

メール会員希望の方は E-mail にて住所/氏名等ご連絡ください。メーリングリストに登録します。詳細はブログ・サイトのリンクより確認ください。

開発と権利のための行動センター

〒244-0824 神奈川県横浜市栄区飯島町 2073-2 B棟 201号 青西方

E-mail cade-la@nifty.com

URL <http://homepage3.nifty.com/CADE/>